

東御市6次産業化推進計画 概要

計画の目的

本計画は、本市の農業の更なる振興に向けて、農業（1次産業）と異業種（2次、3次産業）との連携・融合を促進する指針として策定するものです。地域農産物に新たな付加価値を生み出し、農業者の所得向上と経営安定を図り、雇用機会の創出を目指す、活力と魅力ある地域をつくるための戦略とします。

計画期間

計画の期間は、上位計画である「東御市農業振興計画」との整合を図り、令和2年度から令和6年度とします。

戦略品目

- ◎市内で生産される作物のすべてを戦略品目とします。
- 重点戦略品目は「ぶどう」、「くるみ」とします。
- 重点戦略加工品目はワインとします。

推進体制

本計画を着実に推進していくため、1次、2次及び3次産業の関係団体で組織し、本計画に基づく取組の促進、評価・検証等（PDCAサイクル）を行う東御市6次産業化推進協議会との連携により各種施策を推進します。

東御市6次産業化推進協議会

1次産業関係団体

六次産業化法に基づく総合化事業計画認定事業者
東御市農業委員会
信州うえだ農業協同組合
佐久浅間農業協同組合

2次産業・3次産業関係団体

東御市工業振興会
東御市商工会
一般社団法人信州とうみ観光協会
日本政策金融公庫 小諸支店
八十二銀行 田中支店
東御市社会福祉協議会
長野県上田地域振興局

基本方針

【Thank you 東御の農】～農業サイドから取り組む6次産業～

東御市で生産される農産物に感謝し、東御市産農産物の付加価値向上や農業者の経営の安定、所得の向上及び地域の雇用拡大などを旨し、6次産業化によるイノベーションが起きるよう、農業をはじめとするあらゆる業種が地域一丸となって取り組みます。

目指す方向

モノづくり

魅力的な地域資源の掘り起こしと地域産業の連携による売れる商品づくり

本市の農産物そのものの力を生かし、視点を変えた発想によって地域資源を掘り起こし、生産・加工・流通・販売に携わる人々の連携により、新たな付加価値をつけて魅力的な商品を作り上げます。

出口づくり

出口（販売）を見据え、観光や伝統文化等を含めたあらゆるチャンネルの活用

長野県等と連携し、農業者と小売・流通業者等が交流する機会を創出するとともに、「食」をテーマとした着地型観光や教育・福祉・医療分野等との連携を深めるなど、観光や伝統文化等を含めたあらゆるチャンネルを活用して出口を広げます。

人づくり

産・学・官・金・福のネットワークによる担い手の育成支援と6次産業化の意識啓発

県内の6次産業化に関わる団体等で組織されている「信州6次産業化推進協議会」との連携を強化することにより、必要な人材や地域リーダーを含めた人材育成の機会を創出します。また、食を通し6次産業化に対する市民の理解を深めます。

推進方策

1 地域資源の掘り起こし

- (1) 魅力ある商品開発に向けた原材料の掘り起こし
- (2) 地域自らが考える機会の創出

2 市場競争力を有する商品づくりの推進

- (1) 生産・加工の地域内完結による高付加価値化の推進
- (2) 生産の機械化・自動化の推進
- (3) マーケットインの視点による売れる商品の開発

1 販路拡大の強化

- (1) 販路拡大に向けた商談会等の情報提供
- (2) webやSNSを有効に活用した販路の拡大
- (3) 長野県農産物等輸出事業者協議会と連携した輸出サポートと掘り起こし

2 地域内利用の推進

- (1) 地元産食材の利用促進
- (2) 対面販売の推進と直売所等への支援

3 観光等関連分野との連携強化

- (1) 「食」をテーマとした着地型観光の推進
- (2) 観光資源を活用した特産品の販売促進
- (3) 宿泊施設、飲食施設における地域の農産物の活用
- (4) 千曲川ワインバレー（東地区）特区による広域連携の強化

1 担い手育成

- (1) 6次産業化を担う高い経営ノウハウを備えた実践者の養成
- (2) 異業種間交流の促進
- (3) 若者等の取り組みに対する支援

2 情報の共有化

- (1) 6次産業化に関する各種支援事業の情報提供
- (2) 産・学・官・金・福の連携情報の把握と発信
- (3) 関連分野との連携による人材の育成、新たな価値の創出促進

数値目標

市内ワイン生産本数

現況数値	目標数値
133,000本 (令和元年度)	150,000本 (令和6年度)

6次化に取り組んでいる事業者数

現況数値	目標数値
33事業者 (令和元年度)	43事業者 (令和6年度)

異業種との意見交換会の開催数

現況数値	目標数値
0回 (令和元年度)	5回 (令和6年度)